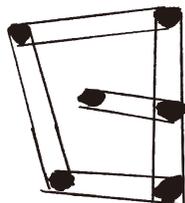


より地域に根差した精神医療を行い、楽しみながら社会復帰や社会参加を目指す若宮病院(山形市)のリハビリテーションプログラムの活動で生まれた、ロールモザイク画の作品展です。プログラムの参加者による下絵を元に、模造紙を筒状に巻いて顔料で染めた「ピース」を1作品約10万個使い、繊細なグラデーションで、あたたかい風景を表現しています。制作には約20名が関わり、コツコツと根気強い積み重ねから生まれる表現です。

困難を抱えながらも前向きに、作品制作に関わることで、自己表現やコミュニケーションにつながっています。表現や芸術が生きる支えになり生活を豊かにしていく可能性を感じていただければと思います。



〔TANADA〕



ギャラリートーク&ワークショップ

表現が生きる支えになる可能性／
ロールモザイク画を体験してみよう
6月30日(日) 14:00-15:30

表現や芸術が生きる支えになり生活を豊かにしていく可能性があります。表現療法としてロールモザイク画に取り組むWAKAMIYA ALGサポーターの渡邊幸二さんと作業療法士の田中忍さんをお招きし、ロールモザイク画の制作方法、展示作品についての背景や想いなどについてお話をお聞きします。その後、実際にロールモザイク画の制作を体験します。現在WAKAMIYA ALGが制作中の作品「月山」に参加してみましょう。

ゲスト：渡邊幸二さん(WAKAMIYA ALGサポーター)、田中忍さん(作業療法士)

※ご参加ご希望のかたは、電話、メールにて、お申込みください。

WAKAMIYA ALG

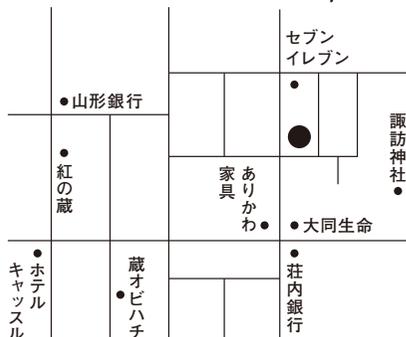
ワカミヤ エーエルジー。若宮病院(精神科)のアルコール依存症者治療グループ。アルコール依存症の入院治療者、リハビリ者、途上者の集団であり、リハビリテーションプログラムとして週2回活動しロールモザイク画を制作している。ロールモザイク画とは、2cm×4cmの短冊に切った模造紙を筒状に巻いて顔料で染めた「ピース」を縦に貼り付けて描いたものである。オリジナル作品は6作。一つの作品を完成させるまで少なくとも10カ月を要する。入院者とともに活動の中心となっているのは、退院後も生活の維持、リハビリの証として通って打ち込んでいる者らであり、多くは60代。

会場までのアクセス

〒990-0033 山形市諏訪町1-2-7

山形駅東口から徒歩約13分

駐車場有



渡邊幸二さん

WAKAMIYA ALGサポーター。作業療法で体験したロールモザイク制作に協力したいと退院後もグループに参加。信頼を寄せる医師との診察室での会話などから山形の風景を作品にする試みを始める。思い出の風景などのスケッチを下絵に、着色に顔料絵具を使用するなど独自のアイデアを活かし制作している。メンバーとともに積み重ねる姿勢をもち続け、さまざまな風景を作り出している。

やまがた障がい者芸術活動推進センター ぎやらりーら・ら・ら

社会福祉法人愛泉会では、平成23年に「ぎやらりーら・ら・ら」を開設、平成28年度からは山形県の事業として、障害のある人の芸術活動の普及支援に取り組んでいます。その活動を通して、新たな価値創造の発信を続け、互いを尊重し理解しあえる包容力のある地域社会を目指しています。

お申込み・お問い合わせ先

やまがた障がい者芸術活動推進センター ぎやらりーら・ら・ら

Tel 023-674-8628 Fax 023-674-8629

Email g.lalala@silver.ocn.ne.jp